『新ポケットモンスター(仮)』

　　　♯０１「タイトル未定」

　　　　　　　　 2022/08/05　５稿

　　　　　　ストーリーライダーズ　佐藤大

リコ

◎ニャオハ

フリード

◎リザードン

ジョーイ

マードック

オリオ

つりびと老人

ぐるみん／キグルミ姿の実況者

◎クワッス

アン

◎ミジュマル

スマホロトム

同級生たち

先生

校長

寮母

ライバル

◎ヒノコ２Ｂ

部下Ａ(女性)

部下Ｂ(男性)

◎サイドン

ナレーション(ルシアス)

ほか

　　　　　　（２０×４０行　計２２ページ）

〇　Ａパート

* ポケモンと世界の広がり

ポケモンたちのいる世界の自然の風景。

その画に続く、雄大なモノローグ。

※ルシアスとコダイカメに繫がる伝説の

ポケモンたちが、登場していく。この時

点では、様々な時期やタイプのポケモン

が登場する物語であることを示唆する雰

囲気で、勇姿が披露される。後にこの場

面に登場していたポケモンたちが、ルシ

アスの持ちポケだったことに繫がる。

ナレーション(ルシアス)「…きみたちにみつ

けてほしい。この世界の美しさを…きみた

ちにみつけてほしい。この世界で、共に生

きる…ポケットモンスターたちとの冒険の

日々を…そして、未来を…」

* カントー・トキワシティ

とびきりの笑顔をみせたリコの目の輝き。

リコ「みつけたっ！」

小さな旅行鞄と制服姿の少女、リコ。

学校へいくバスの停留所を発見した様子。

手にした「スマホロトム」で地図を確認。

リコ「２２番道路。…うん。間違いなし」

　　バス停で、スクールバスを待つ。

足元の草影で木の実をかじる「コラッタ」。

頭上に何か通った影が通過する。リコが、

思わず顔をあげると、影の正体は、優雅

に青空を飛ぶ「ポッポ」。

リコ「(笑顔で)わあっ！」

　　その姿に目を輝かせると、今度は目の前

を「バタフリー」が通過する。

リコ「！」

　　その姿をみた人と一緒の「コダック」が、

微笑ましくみる。

リコ(MONO)「…はじめてのきたカントー地方！

みたことのないポケモンたち感激です！」

　　やってきたスクールバス。乗り込むリコ。

バスに乗り込むときに、旅行鞄を持って

くれる「ワンリキー」。

リコ「あ。ありがとうございます」

* 動画・「ぐるみん」のキグルミ実況０

キグルミ姿の実況者。ハイテンションな早口で喋り倒す落ち着かない様子がコミカル。

途中から動画の背後にクワッスが見切れる。

ぐるみん「よぉす！ポケモントレーナーのみ

んな！ぐる〜びんしてる？ぐるみんの動画

なのだぁ！」

　　そこに飛び込んできたのは、クワッス。

クワッス「クワッス！」

ぐるみん「うわぁ！」

　ぐるみんを押しのけ画面一杯のクワッス。

* 同・スクールバス車内

先輩らしき生徒が「スマホロトム」でキ

グルミ姿の実況者の動画をみている。

先輩Ａ「…(動画の内容に吹き出す)くくっ」

座っているリコが、同じ制服姿の生徒た

ちと一緒だが、落ち着かない。チラ見。

リコ(MONO)「キグルミ姿の実況者ぐるみんだ。

しってる。というか。わたしもすき。って、

わたしから話かけるのはムリだけど…」

窓の外には、セキエイ高原がひろがる。

空をゆく「オニドリル」や「ピジョン」。

草原では、野生のポケモンたちが生息し

ている様子が伺える。「ケンタロス」や

「ドードリオ」の姿に気づくリコ。

リコ「おお…」

　　その姿に目を輝かせると、思わずバスの

窓ガラスに両手をつけて外を凝視する。

岩場のところでは、「ゴローン」と「イワー

ク」がみつかる。

リコ「わ！」

　　リコの様子を車内の生徒たちが、チラ見。

　　気づくと恥ずかしそうに誤魔化すリコ。

　　と、バスが、セキエイ高原にある学校、

セキエイ学園の施設へと向かっていく。

運転手(OFF)「まもなくセキエイ学園前です」

リコが、校舎をみて、破顔。

リコ(MONO)「…はじまるっ。わたしのスクー

ルライフ」

* 同・セキエイ学園・学生寮・付近

生徒たちが、歩いている中で、寮の前に

到着したリコ。

リコ「みつけたっ！」

その寮を感慨深くみあげるリコ。

リコ「セキエイ学園、学生寮」

　　そこに通りかかった寮母。傍らでは「ニョ

ロゾ」 が、水を出して寮母と一緒に掃除

をしている。リコの様子に気づく。

寮母「あなた…新入生ね？」

　　と、手にした「スマホロトム」から学生

証を画面表示させて寮母にみせる。

リコ「パルデア地方からきました。リコです！」

　寮母もスマホで学生データを確認する。

寮母「はいはい。３０３号室のリコさんね。

　ようこそ。セキエイ学園、学生寮へ」

　　　×　　　×　　　×

同・３０３号室・前

リコがやってくる。と、部屋番号を確認

して、ドアをあける。

リコ「３０３…。ここだ」

と、そこにはジャージ姿のアンが、かな

り散らかった部屋でドタバタしていた。

アン「…えーと。歯ブラシはどこだっけ。ん」

リコ「あ。…まちがえ…ました」

思わずドアをしめるリコ。

リコ「あれ？」

次の瞬間、ドアが開くとアン。

アン「まちがってないよ。３０３でしょ」

リコ「あの…はい」

アン「あたし、同室のアン。よろしく」

リコ「はっ。…よろしくです！リコです！」

　　アン、あらためて散らかった部屋にみて。

アン「あはは。かたづけ苦手でさ〜」

　　　×　　　×　　　×

時間経過。部屋を片づけているアンと旅

行鞄から荷物を自分のロッカーに整理を

しているリコ。宝箱を大事そうにしまう。

アン「へー。パルデア地方からきたの。あた

し、いったことないんだよね。いいとこ？」

リコ「えーと。どうだろ。いいとこ、かな」

アン「ね。「パモ」ってみたことある？」

　　回想。フキダシの中に「パモ」の画。

リコ「うん。でも、すぐ逃げられちゃって」

アン「わかる。警戒心強いんだっけ？でも、みてみたい。わたし、カントー地方の外にいったことないんだ」

リコ「わたしもパルデア地方の外でたことな

くて。こっちもはじめて」

アン「なら、今度トキワシティ案内しちゃう」

リコ「ほんとにっ。アンさん」

アン「アンでいいよ。リコ。でいいよね」

リコ「うん。…アン」

　　背後の窓の外では、「ウォーグル」の背中

に乗って空中遊泳している女子生徒が、

通り過ぎる。

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。寮の様子をみると、そこには

ポケモンと共に生活する先輩たちの姿。

「ラッタ」の伸びた歯を削ってあげている

男子生徒。ブラシで「オオタチ」の毛づ

くろいをしている女生徒。「ロゼリア」に

じょうろで水をあげている女生徒。「ホシ

ガリス」にポケモンフーズをあげている

男子生徒たちなど。

　　　×　　　×　　　×

中庭には、生徒用のバトルフィールド。

先輩同士がポケモンバトルをしている。

「ゴーリキー」対「エーフィ」。

そんな様子をアンとリコが、寮の窓から

みている。

アン「やってる、やってる。先輩たちだね」

リコ「「ゴーリキー」対「エーフィ」！」

　　リコとアンが、興奮した様子でみている。

　　　×　　　×　　　×

時間経過。中庭。先輩たちの「ゴーリキー」対「エーフィ」のバトル。「ばくれつパンチ」で突っ込むゴーリキーを、「リフレクター」で壁を張り防御のエーフィ。そこから「サイコキネシス」で相手を浮かせて攻撃している様子。

　　　×　　　×　　　×

アン「ね。入学式が終わったら、いよいよね」

リコ「なに？」

アン「きまってるじゃん。相棒ポケモンっ」

　　　×　　　×　　　×

　回想。ネットをつかって行っている面談。

生徒とポケモンたちが互いを画面ごしで

見ている様子。

リコ(OFF)「たしか入学前の面談結果で、適正

の相手が選ばれるって、いってたよね」

　　　×　　　×　　　×

アンとリコ、互いに顔をみあわせ、キラ

キラと目を輝かせて、同時に。

アン「どんなコかな？」

リコ「たのしみです！」

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。リコが日記を書いている。

リコ(MONO)「はじめてばっかりの１日だった

し、家からも離れて、ひとりでの、学園生

活に不安だったけど…」

　　イビキが響く。となりのベッドではアン

が寝相が悪く寝ている。みて微笑むリコ。

リコ(MONO)「そんなこんなで、明日は入学式。

わたしの相棒ポケモン、どんなコかな！」

* 同・セキエイ学園・全景(翌朝)

校長(OFF)「…ポケットモンスター、ちぢめて

ポケモン。この星の不思議な不思議な生き

物…」

* 同・講堂

入学式の様子。講堂には、席にすわっているたくさんの生徒たちの姿。

校長(OFF)「ポケモンたちは海、空、森、街の

中、いたるところにいます…」

　どの瞳もキラキラしている。

その中には、アンとリコの姿もある。

校長(OFF)「人とポケモンは様々な絆を結び、

この世界で暮らしています。ということで」

ステージの上では、女性校長を中心に先生たち。そして、校長の挨拶が終わる。

校長「…みなさんは、ここセキエイ学園で絆

を結んだポケモンと一緒に、夢をみつけて

ください！」

　　　×　　　×　　　×

時間経過。オリエンテーション。

先輩たちに学校を案内される。

　　　×　　　×　　　×

教室。スマホロトムにポケモン図鑑をダウンロードしてもらったリコたち新入生。

教師「ここまでいいですね。では、みなさん。

スマホロトムを再起動してください。それ

で、みなさんのポケモン図鑑が使えるよう

になります」

リコ「うん。これで、アップデート完了」

アプリをアップデートすると起動。

画面にポケモン図鑑が表示される。

リコ「たはぁ…わたしのポケモン図鑑」

　　スマホを確認して、笑顔になるリコ。

　　その横からアンが、リコに。

アン「お次は、お待ちかねの、ご対面ねっ」

　　　×　　　×　　　×

同・校内。

パートナーとなるポケモンのはいったモンスターボールが渡される。

(※画的な描写などは一考。今までのゲー

ムに登場した御三家から選ばれる)

先生「次、アンさん」

アン「はい！」

アン、ミジュマルと出会い、喜ぶ。

アン「ミジュマル！やった。よろしくっ！」

スマホロトム(OFF)「…新しくミジュマルが、

登録されました(※台詞の内容はＳＶでの

スマホロトムの文面に合わせます)」

　　アンが、スマホロトムの図鑑を確認。

ミジュマル「(鳴く)」

アン「あらためて、よろしくね。ミジュマル」

　　　×　　　×　　　×

先生「次、リコさん」

今度はリコ。緊張したリコがうけとる。

リコ「は…い」

と、リコのモンスターボールからあらわれ

たのはニャオハだった。

リコ「…ニャオハ」

　　びっくりした顔のリコと見つけ合う。

リコ「(感激して)かか、…かわいいいぃ！」

スマホロトム(OFF)「…新しくニャオハが、登

録されました」

ニャオハ「ニャッ」

リコ「よろしくおねがいします。リコです！」

　　リコが、スマホロトムの図鑑を確認。

スマホロトム(OFF)「…前脚をふみふみとこす

りつけることで、周辺に甘い香りを放ち、

周りを魅了します。(※台詞の内容はＳＶで

のスマホロトムの文面に合わせます)」

　　思わず抱きしめようと両手を伸ばすと。

リコ「わあ。ほんとにいいかおり！」

ニャオハ「フニャオッ」

次の瞬間、ニャオハが、逃げ出す。

リコ「あ。まって、ニャオハ！」

　　　×　　　×　　　×

　　同・校内。ニャオハを追いかけるリコ。

リコ「パルデア地方のポケモンだし…。わた

しにぴったりって、…おもったのに…のに」

　　しかし、逃げられたのが恥ずかしいので、

　　生徒たちがいる前では、探しているのを

　　隠しつつ、人気がなくなるとキョロキョ

ロして、探しているリコ。

リコ「ニャオハ〜？」

　　　×　　　×　　　×

　　同・学寮。キョロキョロしているリコ。

　　そんな姿をみて、微笑む先輩たち。

リコ「どーも。なんでもないです〜。…もう。

ニャオハ〜、どこ」

　　と、リコの鼻がひくひく。

リコ「！　そうだった。なによりの手がかり

は、アロマの香りっ」

　　　×　　　×　　　×

　　同・屋上。

　　現れたリコ。その鼻がひくひく。

リコ「この香りをたどっていけば…」

　　と、たどっていくと、

リコ「みつけた！」

　　そこにはニャオハがひなたぼっこ。

ニャオハ「…ニャ」

　　あぶない場所。

リコ「なんで…そんなとこ。あぶないよ」

　　反応しないニャオハ。

リコ「ムチャしないで…」

　　反応しない。

リコ「…しかたない…」

　　と、リコがあぶない所へとむかう。

リコ「ひ…」

　　ビビりながら、接近するリコ。

ニャオハ「…」

リコ「そのまま…いてよ」

　　捕まえようとするリコ。

が、次の瞬間、ニャオハ。

すっと、ジャンプでにげる。

リコ「はわわわわっ」

　　バランスを崩して、落ちる。が、…

リコ「ああぁぁぁぁ！」

　　そこは昼寝をしていた「カビゴン」。

そのお腹がクッションになって、無事。

リコ「わっ？」

その傍らで同じく昼寝をしている学生の

トレーナーの姿。どちらも寝たまま。

リコ「…ご…ごめんなさい」

　　カビゴンたちは眠ったままで起きない。

リコ「ふぅ〜」

思わず泣きそうなリコ。

リコ「もう、…なんなのっ」

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。逃げたニャオハを追ってきた

リコ。顔に夕陽がさす。と、風景をみる。

リコ「！」

　　建物の影になっていたが、どこまでも続

く高原の水平線。そこに沈む夕陽。

キラキラした「バタフリー」の群れ。

リコ「(笑顔で)わあっ！」

　　その姿に目を輝かせるリコ。

と、そこにひょいと現れたニャオハ。

すかさずリコがニャオハを捕まえる。

リコ「ニャオハ。みつけた！」

　　そして、ニャオハを抱きしめるリコ。

リコ「…いいかおり」

ニャオハ「ニャオ！」

* 動画・「ぐるみん」のキグルミ実況①

(※以下の台詞を全て聞かせる必要はないと思います。必要な部分だけを途中から聞かせる感じで考えています)

ぐるみん「よぉす！ポケモントレーナーのみ

んな！ぐる〜びんしてる？ぐるみんの動画

だぜ。なに？ポケモントレーナーって、な

にってか。そりゃ、ポケモンを育て、ポケ

モンバトルで戦わせ、競い合う人たちをポ

ケモントレーナーって呼ぶんだ。でもって、

そんな全ポケモントレーナーの憧れで目標

となるのは、「チャンピオン」なのだぁ！」

* 同・女子寮・３０３号室

夜。ぐるみんの動画をベッドに寝ながら、

みているアン。途中で寝落ちしている。

リコは机で日記を書いている。リコのベッ

ドではニャオハが丸くなり眠っている。

リコ(MONO)「…そんなこんなでわたしとニャ

オハの生活が、はじまった」

* リコの生活・点描

…ここから日記をとおしての時間経過。

リコ「…初バトルは、翌日のこと」

　　　×　　　×　　　×

同・中庭・バトルフィールド。

時間経過。ポケモンバトル中のリコとニャ

オハ。相手はアンとミジュマル。

リコ「ニャオハ！「このは」！」

　　だが、ニャオハはリコの指示よりはやく

「ひっかく」でミジュマルに攻撃。しかし、

　　うまくタイミングがあわずに避けられる。

アン「すきありっ」

　　アンのミジュマル、うまく技を出す。

アン「ミジュマル！「みずでっぽう」だ！」

　　と、ずぶ濡れになってしまったニャオハ。

ニャオハ「ふぎゃっ」

リコ「ああ…」

　　と、戦意喪失したニャオハとリコ。

リコ「ごめん…。ニャオハ」

　　アンとミジュマルが見つめ合う。

アン「やった。それじゃ、勝負にならないよ」

　　リコ、ニャオハをみるが目をそらす様子。

リコ「(困った顔)うん。いつもムチャばっか

して、なに考えてるんだか」

アン「あとさ。お互いのしたいこと、わかり

あって、ぶつけなきゃ。ね。ミジュマル」

ミジュマル「(鳴く)」

　　ずぶ濡れのニャオハとリコ。

リコ(M0N0)「わたしとニャオハのしたいこと

…？」

* 動画・「ぐるみん」のキグルミ実況②

(※以下の台詞を全て聞かせる必要はないと思います。必要な部分だけを途中から途中までなど聞かせる感じで考えています)

ぐるみん「よおっす！…ポケモンバトルでは、

トレーナーの指示でポケモンたちが鍛えた

技をぶつけ合い、その強さを競うんだ。バ

トルの勝敗の決め手は色々。中でも、一番

重要なのは、「タイプ相性」！例えば、ほの

おタイプはくさタイプに強く、くさタイプ

はみずタイプに強いという感じ。１８ある

タイプを理解してバトルに臨むのが、勝負

のカギだぜ！」

* 学寮・３０３号室

ベッドで動画をみていた参考になった感じでうなづくリコ。

リコ「…」

隣で寝ているアンを起こさないようにニャオハとドアをあけて出ていく。

* 学寮・ひみつの場所

リコ(M0N0)「…であった日にみつけたところ

は、ふたりだけの秘密の練習場になった」

アンには内緒でニャオハと技の練習。

でも、なかなかうまくいかない。もどか

しい。みあげた夜空には小さな月。

リコ(M0N0)「あの月、なんだか。とおくて。

手をのばしても、とどきそうもない」

　　　×　　　×　　　×

警備員の目を盗んで自室に戻るリコ。警

備員のポケモンは、ゴーストタイプに強

い「ポチエナ」。

×　　　×　　　×

時間経過。アンは、ベッドで寝ている。

リコ、ロッカーから大切な宝箱をとりだ

して、大事そうに覗く。

リコ「…」

アン(OFF)「キレイ！」

いつの間かアンが、のぞきこんでいた。

リコ「わっ！起こしちゃった？」

アン「なにそれ」

リコ「あ。…えーと。お守り？」

アン「ね。みせて？」

《ルシアスの宝石(コダイカメ)》のペン

ダント。アンに渡す。と、みて驚くアン。

アン「ペンダントじゃん。すごい。きれい」

リコ「おばあちゃんから、もらったんだ。わ

たしのこと、まもってくれるんだって」

アン「へぇ〜」

　　アンが、ペンダントをリコの首元に掲げ

る。と、キラリと輝く。

アン「なんで。しまっとくの？にあうのに…」

　　と、リコがペンダントを宝箱にしまう。

リコ「うん。あんまり人にみせちゃいけないっ

て、おばあちゃんに言われたんだ」

そんなリコとアンの様子をニャオハとミ

ジュマルが、みている。

* リコの生活・点描

間の授業中、(夜の技練習の為)まどろ

む寝不足のリコ。空をみあげている癖を

アンに指摘される。その癖は寮の屋上で

いつもひなたぼっこをしているニャオハ

と同じなのだが、互いに気づいていない。

　　　×　　　×　　　×

時間経過。昼休みのリコとアン。アンの

傍らにはミジュマルがいる。

リコ「あー。おなかすいたー」

アン「今日、なにたべる。ヘルシー・ランチ。

それとも、スタミナ・ランチ。はたまたス

ペシャル？」

ミジュマル「(鳴く)」

アン「おー。ミジュマルは？スペシャルか。

だよね。リコは？」

リコ「うーん。じゃ。私もスペシャルでっ」

食堂で料理人の手伝いをする「クラブ」

（＝ハサミが包丁代わり）てくてくとお

盆で運んでくれる。

リコ「ミジュマル。ごきげんだね」

アン「あれ、ニャオハは？」

　　　　　×　　　×　　　×

　　学寮の屋上。ひなたぼっこ中のニャオハ。

リコ(OFF)「うー。たぶん。昼寝」

　　　×　　　×　　　×

時間経過。運動場。格闘系の運動部と一

緒に練習する「エビワラー」「サワムラー」

「カポエラー」の姿。とリコたち生徒。

そんな上空。遠くで、小さく飛行船。

　その姿に気づくアン。

アン「みて。飛行船。めずらしいよ。リコ」

リコ「…そう」

　　　×　　　×　　　×

時間経過。図書館。司書の隣で寝ている「ケーシィ」。超能力で本を取ってくれる。

　　リコとアン、隣に座って話をしている。

アン「どしたの？心ここにあらずって感じ」

リコ「…いいよね。ミジュマル」

アン「ニャオハのこと？自由でいいね」

リコ「でも、ほんとムチャばっかで。何考え

てるのか、よくわかんなくて」

　　　×　　　×　　　×

時間経過。学寮。寮母と「ニョロゾ」が、

生徒たちの大量の洗濯物を持ち上げる。

　　リコとニャオハが、一緒にいる。

アン(OFF)「…わかろうとするから、わかんな

いんじゃない。ニャオハも同じかも。もっ

とリコが自分のことをつたえなきゃ」

リコ(OFF)「…なにそれ。むずかしい」

ニャオハは、そんなリコの態度が気に入

らないのか、姿を消す。

リコ「ニャオハ〜。もう、また」

　　　×　　　×　　　×

　　リコはアロマをたどってみつける。

リコ「(鼻でひくひくすると気づく)！」

　　そこは、ひみつの場所。

リコ「みつけた！ニャオハ！」

ニャオハ「ニャ」

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。ひみつの場所。一緒に夕陽を

みているニャオハとリコ。

リコ「(ニャオハに)私ね。…自分でやりたい

こと、誰かに伝えたくても、うまく言葉が、

みつからないことが多いんだ」

そんなリコを知ってか知らずか、ニャオ

ハがじっとみている。

リコ「…ニャオハは？何がしたい？」

ニャオハ「ニャオハ」

* ニャオハの観察日記

様々なところでニャオハの様子をみているリコが日記にメモ。時に物陰にかくれて、昼寝の場所。

リコ「ふんふん。そういうことね」

遊んでいる様子。散歩の経路など。

リコ(MONO)「…しりたい。もっと、ニャオハ

のこと…。そうすれば、わたしとニャオハ

で、一緒にしたいことがわかる…かな？」

　　　×　　　×　　　×

　　そんなリコとニャオハの様子をみて、ア

ンとミジュマルが顔を見合わせて微笑む。

リコ(M0N0)「まだみつかってないけれど、…

いつか、きっと…」

* 同・付近

一方、レジェンズのメンバー。

リコをさがしている。学校までは、たど

りつけたのだが、生徒達は沢山いるのを

みているメンバー。と、マードック。

マードック「…学生は、同じようにみえるな」

その手にはスマホ。画面にはリコの写真。

オリオ「みんなちがうでしょ。しっかりして」

行動は、基本的にコメディな雰囲気。

ジョーイ「みつからないね」

* 同・学寮

そんな放課後。いつものようにきまぐれ

で、どこかに消えてしまうニャオハの行

方をさがしているリコ。

リコ(M0N0)「ニャオハには、何カ所かお気に

入りのひなたぼっこ場所があるんだ。…そ

れに、いつもアロマの香りするから…」

リコは居場所がわかる)。

リコ「みぃつけた！ニャオハ」

そんなニャオハは、いつも屋上から屋根

へと危険なジャンプをしたりしている。

リコ「もう、無茶なことしないで」

とニャオハが心配で怒るリコ。

ニャオハ「ニャオ」

リコ「もう…肉球さわっちゃうぞぉぉ」

　　と、じゃれ合うリコとニャオハ。

リコ「ふは〜。いいかおり〜」

　　その雰囲気は、距離が近づいている。

　　　×　　　×　　　×

一方、レジェンズの点描。散歩している

人を装って、うろうろするオリオとジョーイ、マードックとつりびと老人。

つりびと老人「…」

寮母に怪しい奴と思われたりして、逃げるメンバーたち。

オリオ「もう、はやくみつけなくちゃいけな

いのに…」

フリード(OFF)「どうだ？」

　そこに現れた顔をみせないフリード。そ

の手にスマホ。画面には、リコの写真。

ジョーイ「みつからないね」

* 同・学寮・夜

ニャオハと深夜に練習するリコ。

リコ「ニャオハ！このはっ」

いつの間にか寝ているニャオハ。

リコ「もうー」

　　でも、リコは、ニャオハに微笑む。

リコ「ほんと、きまぐれなんだからっ」

* 同・学寮

翌朝…。そこに現れるライバル。

その手には、手紙。住所を確認して。

ライバル「…ここか」

〇　Ｂパート

* 同・学寮

寮母が、スマホで動画を横目に見送り。

寮母「みなさん、気をつけてね」

学生たちが荷物をもって出ていく。

アンの姿もある。と、見送るリコ。

アン「ああ。ひさしぶりに実家だ。ゴロゴロ

しよっと。あとミジュマル紹介しなきゃ」

ミジュマル「(鳴く)」

リコ「じゃあね。アン」

アン「リコはいいの。はじめての大型連休な

のに。パルデアに帰らないの？」

リコ「わたしはまだいいや。お父さんもいそ

がしいだろうし。お母さんは、いつも仕事

で留守がちだしね」

アン「そっか。じゃ。ニャオハとふたりで、

留守を頼んだ」

リコ「うん。いってらっしゃい」

アン「またねー」

* ここがアンとのしばらくの別れとなる。

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。リコを呼ぶ寮母。

寮母「…リコさん。お客さんですよ」

リコ「はーい」

　　　×　　　×　　　×

　　と、寮の玄関まできたリコとニャオハ。

　　そこに待っていたのは、見知らぬ人影。

ライバル「はじめまして。リコさんですね」

リコ「はぁ。どなたでしょうか？」

ライバル「お婆さまの代理人です」

背広姿にビシッときめた美青年の男(変装

しているが後にライバルだったとわかる)。

と、彼から手紙が渡され、驚くリコ。

リコ「おばあちゃんの…手紙って…？」

意味がわからないリコ。

ライバル「お婆さまが待っています。今すぐ

に一緒にきてほしいとの伝言です」

リコ「…どうして、あなたが？」

ライバル「あ。くれぐれも忘れずに大切なペ

ンダントをもってきてほしいとのことです」

不審に思ったのか、ニャオハが反発。

ニャオハ「フゥゥゥ」

リコ「ニャオハ。失礼よ」

その様子をみてなにかを感じるリコ。

リコ「準備してきます。まっててください」

　　　×　　　×　　　×

同・３０３号室。

リコと顔を見合わせるニャオハ。

リコ「…なんか、ヘンだよね。ニャオハ？」

ニャオハ「ニャ」

リコ「うちのおばあちゃんが、手紙なんて、

あり得ない！」

するとベッドの下から、旅行鞄をだして、

てばやく荷物をいれるとリコ。

リコ「あわわっ」

あわてて落とした宝箱から転がり出たペ

ンダントを思わず首からさげながら、窓

からニャオハと一緒に逃げる。

　　　×　　　×　　　×

　　時間経過。ライバルが、待っているが、

　　なかなか現れないので、部屋をあける。

ライバル「失礼」

　　と、そこにはいない。

ライバル「…いない！」

　　手にしたスマホロトムをつなげて指示。

ライバル「逃げた。周辺をかためろ」

* 同・学寮・屋根

窓から逃げたリコ。

ニャオハ「…ニャ」

リコ「こっちね」

リコとニャオハのふたりでみつけたひなたぼっこコースを辿って行く。

リコ「…！」

　　ふっと下を覗くと、怪しい人影。

リコ「あわっ」

　　　×　　　×　　　×

同・下。

代理人と部下Ａが、リコたちを探している様子。

ライバル「みつかったか」

部下Ａ「いえ。どこかにかくれているかと」

ライバル「…厄介だな。いざとなれば、例の

ペンダントだけでも…」

部下Ａ「(上をみてリコを発見)いました！」

　　　×　　　×　　　×

同・中庭。

寮の中でかくれながら逃げているリコだったが見つかってしまいピンチ。

部下Ｂ「そこだ。まて」

リコ「！」

部下Ｂ「いけ。「サイドン」！」

　　するとモンスターボールから「サイドン」

を出す部下Ｂ。

リコ「サイドン？…ニャオハ！」

ニャオハ「ニャ」

「サイドン」が大きな体で威圧してくる。

リコ「ニャオハ！このはっ」

ニャオハからでたのは葉っぱが数枚のみ。

部下Ｂ「ははは。我が「サイドン」にそんな

技で倒せるものか」

リコ「そうだ！…倒す必要なんて。ニャオハ」

　　互いに顔を見合わせて、うなずく。

ニャオハ「ニャ」

リコ「このは！」

部下Ｂ「無駄なことを…ん？」

すると、今度はニャオハの「このは」が、サイドンの目にはりつき、バランスを崩す。その隙をついた身軽なニャオハが、

サイドンの角を足場にジャンプ。すると、アロマのあまいかおりがただよう。と、サイドンが、巨体のバランスを崩して。

サイドン「(へなへなした感じで鳴く)」

部下Ｂ「なにっ」

油断していた部下Ｂは、すきをつかれる。

リコ「できたよ。ニャオハ」

ニャオハ「ニャ！」

　　部下Ｂを退けて逃げるリコとニャオハ。

　　　×　　　×　　　×

同・付近。

と、その隙に、あらたな部下Ａが、出現。

部下Ａ「そこまでね」

リコ「…あうう」

　　そして、挟み込むように現れたライバル。

ライバル「あきらめろ。これ以上、…手荒な

ことはしたくない」

リコ「…」

ニャオハ「ニャ」

リコ「こっちね」

　　と、逃げていくリコとニャオハ。

　　おいかけていくライバルたち。

* 同・学校・屋上

時間経過。日が沈んでしまい、夜に。

学校の屋上までにげたがリコたち。

…追いつめられたリコとニャオハ。

リコ「…」

　　次の瞬間、何かに気づくニャオハ。

ニャオハ「…ニャ！？」

ジリジリと迫るライバルと部下を前に…。

フリード「みぃつけたぁ！」

次の瞬間、突然上空からリザードンにのっ

たフリードが出現。

ライバル「リザードンだと？！」

リコ「今度は、なに！」

ニャオハ「ニャオハ？！」

ライバル「なにものだ」

フリード「そりゃ、こっちの台詞だ。おれら

は、その子に用事がある」

ライバル「それは奇遇だな。我々も同じだ。

では…」

　　すると、ライバルが、モンスターボール

を手にする。

ライバル「勝負で、決める」

　　と、フリードも応える。

フリード「のぞむところっ！」

ライバル「(部下たちに)…手出しをするな」

* ポケモン・バトル(フリード対ライバル)

相手の出方を探るため、お互いに放射系

の技を指示するフリードとライバル。

フリード「リザードン！「かえんほうしゃ」」

ライバル「ヒノコ２Ｂ！「ねっぷう」だ」

リザードン「かえんほうしゃ」の赤い炎

と、ヒノコ２Ｂ「ねっぷう」の青い炎の

ぶつけ合い。技がぶつかり合い、衝撃が

周囲に広がり、建物にヒビが入ったり、

窓ガラスが割れるなど。

ライバル「ヒノコ２Ｂ…「つじぎり」！」

ヒノコ２Ｂが素早い動きでリザードンに

接近し、「つじぎり」で切りかかる。

フリード「リザードン！「ドラゴンクロー」！」

　　リザードン「ドラゴンクロー」で鍔迫り

合い。激しい闘いが続く。

ライバル「く！」

　　　×　　　×　　　×

闘いに圧倒され、慌てるリコとニャオハ。

リコ「！」

ニャオハ「ニャオハ！」

リコ(OFF)「このままじゃ、戦いに巻き込まれ

て、学校があぶないし…。寮をこれ以上壊

されないように、しなきゃ…」

ここから逃げようとリコとニャオハが、

互いに顔を見合わせて、うなずく。

ニャオハ「ニャ」

リコ「だよね」

リコとニャオハ。いつもニャオハを探し

てリコが、辿っているひみつの場所から

の経路を逃げていく。

追跡してきた部下たち危険な場所をゆく。

部下Ｂ「おっと…まて！」

ニャオハは、いつもの身軽さ。そして、

リコも今回はしっかりと一緒に逃げる。

リコ「はあはあ…」

　　　×　　　×　　　×

一方、フリードとライバルのバトルが、

続いている。リザードンが距離を取って

「エアスラッシュ」を放つ。

フリード「リザードン！「エアスラッシュ」」

ヒノコ２Ｂが両手の剣で弾く。

ライバル「ふ。やるな！」

　　フリードは、逃げていくリコとニャオハ

を目線で、追っている。

フリード「…どこへ？」

　　　×　　　×　　　×

屋上から隣の屋根へ。かなりの隙間。

と、ニャオハが、いつものジャンプ。

ニャオハ「ニャ！」

続いてリコだが、思わず尻込み。

リコ「う…！」

　　思わずとまってしまう。

背後からは部下たちが迫っている。

リコ「…」

　　隣の屋根のニャオハが、うなずく。

ニャオハ「ニャオハ！」

リコ「…うん。せーのっ」

　　と、覚悟をきめたリコが、ジャンプ！

　　リコが、渾身の飛翔。

リコ「やあああ！」

思わず胸にさげたペンダントを握るリコ。

　　　×　　　×　　　×

フリードとライバルのバトルが続く。

ライバル「よそみをしている場合か！」

フリード「んだと？」

ライバル「なぎはらえ！ヒノコ２Ｂ！「かえ

んほうしゃ」だ！」

はなたれた「かえんほうしゃ」。

が、リザードンが、技をはじき返す。

リザードン「(吠える)」

と、その炎が、ちょうど、ジャンプをし

ていたリコとニャオハにむかっていく。

フリード「…しまった！？」

　　　×　　　×　　　×

　　せまる炎が、リコへと襲いかかる、寸前。

リコ「！」

ニャオハ「ニャぁ！」

次の瞬間、ただのペンダントだと思って

いた宝石が、一瞬だけポケモンの「コダ

イカメ」の姿になる。それを目撃したの

は、リコとニャオハだけ。

リコ・ニャオハ「！？」

驚くリコとニャオハ。その輝きから、周

囲に展開される、まるでダイヤモンドの

バリア（後のテラスタルの力への布石）。

リコ「え！なにこれぇぇ！？」

リコを守るため、周囲に展開したバリア。

「かえんほうしゃ」をはじき返す！

それこそが、リコのペンダントが持つ、

隠された力のひとつだった。

つづく